

# 株 主 通 信

2022年6月



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード:5911

## YBHD NEWS No.63

- 第158回 定時株主総会決議ご通知
- 第158期 事業報告書

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第158期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)事業年度が終了いたしましたので、株主通信をお届けし、その概況をご報告申し上げます。

第5次中期経営計画(2019年度から2021年度まで)におきましては、売上高はエンジニアリング関連事業を思うように伸ばせず目標値に届かなかったものの、橋梁事業を中心とした採算性の向上により、営業利益および1株当たり当期純利益について、2020年度から2年連続で数値目標を達成いたしました。

今後の橋梁事業の事業環境につきましては、徐々に補強・補修工事が中心の市場になっていくと思われませんが、中期的には新設・保全とも相当数の大型案件の発注が見えている状況です。

システム建築事業につきましては、電子商取引(EC)市場の拡大による都市部の倉庫需要、サプライチェーンの国内回帰施策による工場需要の拡大が見込まれ、低コスト・短工期のシステム建築が求められる機会は更に増加すると考えております。

土木関連事業につきましても、鉄道などの地下構造物需要に加え、カーボンニュートラル関連で特に洋上風力発電事業への関心が高まる中、新たな土木構造物の市場拡大が期待されています。総じて何れの事業にも一定の成長が見込めるものと認識しております。

当社は本年5月に2022年度を初年度、2024年度を最終年度とする第6次中期経営計画を発表いたしました。この3年間を4つの経営ビジョンの実現に向けた土台づくりの期間として位置づけ、安定的な事業量が見込める橋梁事業と成長の柱であるシステム建築事業の2つを基幹事業として一層の強



代表取締役社長  
高田 和彦

化を図り、更に中長期的な視点で新たな事業の創出に向けた準備を行い、激変する社会情勢にも柔軟に対応できる経営基盤づくりを推進いたします。詳しくは7・8頁の「第6次中期経営計画の紹介」をご覧ください。

当社は、株主の皆様に対する利益配分を最重要施策の一つとして認識し、業績ならびに今後の事業展開に伴う資金需要などを総合的に勘案のうえ、安定した配当を継続することを基本方針としております。当期の期末配当金につきましては、この基本方針に基づき、1株当たり40円とし、中間配当を含めた年間配当金は1株当たり75円と、前期に比べ23円の増配とさせていただきます。

厳しい事業環境が続きますが、グループ一丸となり、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2022年6月

## 第158回定時株主総会決議ご通知

2022年6月28日開催の当社第158回定時株主総会におきまして、以下のとおり報告ならびに決議されましたのでご報告申し上げます。

### 報告事項

- 第158期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件**  
本件は、上記事業報告、連結計算書類の内容およびその監査結果を報告いたしました。
- 第158期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)計算書類報告の件**  
本件は、上記計算書類の内容を報告いたしました。

### 決議事項

- |       |   |
|-------|---|
| 第1号議案 | <b>剰余金の配当の件</b><br>本件は、原案どおり承認可決されました。(期末配当金は1株につき40円と決定いたしました。)  |
| 第2号議案 | <b>定款一部変更の件</b><br>本件は、原案どおり承認可決されました。  |
| 第3号議案 | <b>取締役9名選任の件</b><br>本件は、原案どおり承認可決され、取締役に高田和彦、高木清次、宮本英典、柴原一也、小林明、亀井泰憲、黒本和憲、天野玲子の8氏が再選され、吉田昭仁氏が新たに選任され、それぞれ就任いたしました。<br>なお、亀井泰憲、黒本和憲、天野玲子の3氏は、社外取締役であります。 |
| 第4号議案 | <b>取締役に対する株式報酬制度の一部変更の件</b><br>本件は、原案どおり承認可決されました。  |

以上

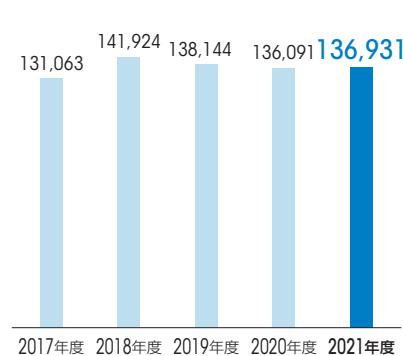
本総会終了後開催いたしました取締役会において、次のとおり代表取締役が選定され、就任いたしました。

代表取締役  
取締役社長 高田 和彦 (重任)

当期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の業績につきましては、システム建築事業が伸び悩みましたが、の、橋梁事業が堅調に推移したことにより、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益の数値は、前期に次ぐ過去2番目の実績となりました。

来期の見通しとしましては、橋梁事業は当期に比べ竣工案件が少ないものの、引き続き堅調に推移する見込みであり、当期の後半から受注が回復しましたシステム建築事業を成長軌道に戻し、増収増益を目指してまいります。

売上高 (単位:百万円)



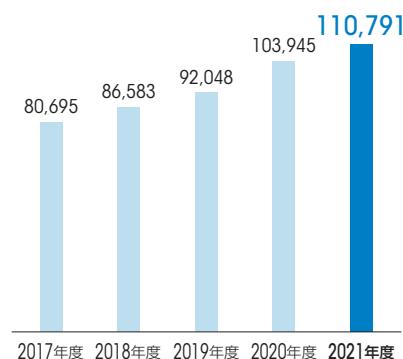
経常利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



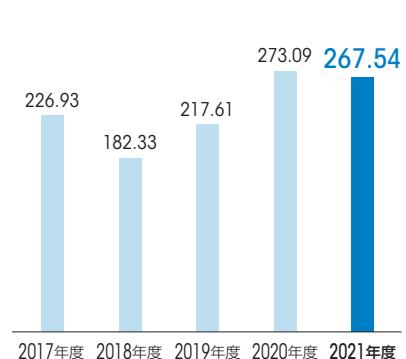
純資産 (単位:百万円)



総資産 (単位:百万円)



1株当たり当期純利益 (単位:円)



連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前 期 2021年3月31日現在	当 期 2022年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	104,632	109,363
固定資産	65,062	63,186
有形固定資産	39,072	39,456
無形固定資産	1,474	2,145
投資その他の資産	24,516	21,583
資産合計	169,695	172,549
<b>負債の部</b>		
流動負債	40,789	45,914
固定負債	24,960	15,843
負債合計	65,749	61,758
<b>純資産の部</b>		
株主資本	94,860	103,351
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,185	10,299
利益剰余金	79,140	87,488
自己株式	△ 3,900	△ 3,872
その他の包括利益累計額	6,269	4,432
非支配株主持分	2,815	3,007
純資産合計	103,945	110,791
負債純資産合計	169,695	172,549

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

	前 期 2020年4月 1 日から 2021年3月31日まで	当 期 2021年4月 1 日から 2022年3月31日まで
売上高	136,091	136,931
売上原価	111,287	112,743
売上総利益	24,803	24,188
販売費及び一般管理費	8,837	9,435
営業利益	15,966	14,752
営業外収益	513	575
営業外費用	385	332
経常利益	16,094	14,995
特別利益	633	1,312
特別損失	204	38
税金等調整前当期純利益	16,523	16,269
法人税、住民税及び事業税	5,307	4,899
法人税等調整額	△ 338	63
当期純利益	11,554	11,306
非支配株主に帰属する当期純利益	265	262
親会社株主に帰属する当期純利益	11,289	11,043

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前 期 2020年4月 1 日から 2021年3月31日まで	当 期 2021年4月 1 日から 2022年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	195	17,074
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,985	△ 3,474
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,619	△ 9,779
現金及び現金同等物に係る換算差額	23	45
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 3,147	3,866
現金及び現金同等物の期首残高	22,739	19,592
現金及び現金同等物の期末残高	19,592	23,458

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 橋梁事業



売上高／営業利益



受注高／受注残高



- 国内新設橋梁、保全工事ともに高速道路の4車線化や大規模更新・修繕工事などの大型案件を受注できましたことから、受注高は過去最高となった前期を下回ったものの、年度計画(790億円)は達成いたしました。業績につきましても、複数の長期大型工事の竣工時精算の獲得が重なりました前期実績には届かなかったものの堅調に推移いたしました。
- 来期の業績は、売上高832億円、営業利益90億円と予想しております。

### エンジニアリング関連事業



売上高／営業利益

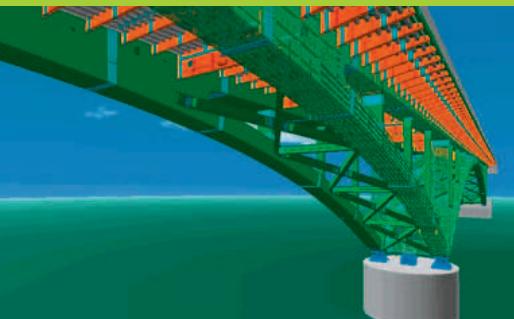


受注高／受注残高



- システム建築事業の受注は堅調な倉庫案件に加えて工場案件が下半期以降に回復し、特に第4四半期は記録的な受注量となり、受注面積が通期で初めて100万㎡を超えました。また、土木関連事業において大型案件を受注することができましたため、事業全体の受注高は過去最高を更新いたしました。業績につきましては、土木関連事業の生産が停滞する中、システム建築事業につきましても上半期の低調な受注の影響により生産が伸び悩みましたため、事業全体の営業利益は前期を下回りました。来期は、システム建築事業につきましては、原材料価格が上昇する中、価格改定やコスト縮減を図りながら利益の確保に努めてまいります。
- 来期の業績は、売上高750億円、営業利益66.5億円と予想しております。

### 先端技術事業



売上高／営業利益



受注高／受注残高



- 精密機器製造事業が好調でありましたため、受注高、売上高、営業利益は何れも過去最高を更新いたしました。
- 来期の業績は、売上高52億円、営業利益9億円と予想しております。

# 第6次中期経営計画の紹介

当社グループは、2022年度を初年度とする第6次中期経営計画(2022年度から2024年度まで)を策定いたしました。

## 経営ビジョン

当社グループは、「社会公共への奉仕と健全経営」を企業理念として掲げ、「長期的な橋守り」、「多角的な鋼構造エンジニアリング」、「強靱な社会環境づくりと自然環境との共生」、「強固な経営基盤の構築」の実現と持続的な拡大を目指しております。

第6次中期経営計画は、経営ビジョンの実現に向けた土台作りの期間と位置づけています。

## 基本方針

レジリエンスの高い経営基盤づくり

### 1 基幹事業の一層の強化を図る

橋梁事業: 保全事業への対応強化と大型新設案件への取り組み  
システム建築: 各種管理システムの開発による受注・生産の連携強化と追加設備投資による生産性向上

### 2 多様な事業を創りながら進化する

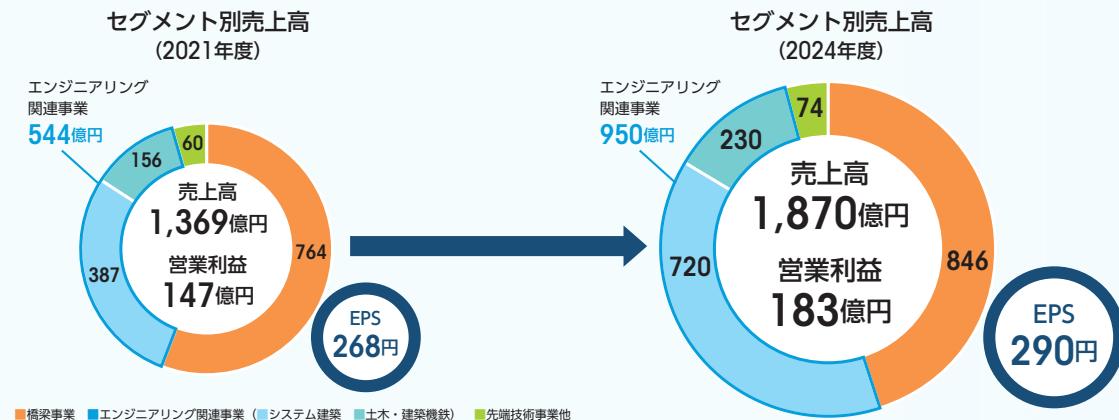
防潮堤、港湾リニューアル、洋上風力発電事業など新規事業分野への挑戦

### 3 100年先を見据えた強固な経営基盤を確立する

新材料・新工法など環境負荷低減に資する技術開発の推進、再生可能エネルギーの利用促進、IT関連投資を倍増させ、DXへの取り組みを加速

## 業績数値目標

橋梁事業とシステム建築事業の拡大により業績水準を大幅に引き上げる。



## 環境



国土強靱化への対応 ▶ 地下河川構造、防潮堤、床版取替工法の開発など

グリーンエネルギー、環境負荷低減に関する技術開発 ▶ 洋上風力発電設備、新型水処理施設、低炭素材料の有効利用など

CO<sub>2</sub>排出量の削減 ▶ 再生可能エネルギー電力への切り替え、太陽光発電設備の設置など

2024年度 20%の削減  
2030年度 50%の削減  
2050年度 カーボンニュートラル達成

\*2020年度比、SCOPE1,2

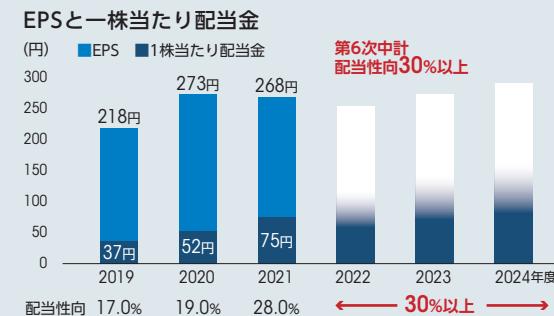
TCFD提言に沿った情報開示

## 資本政策と株主還元

「財務の健全性と資本の効率性の両立を図る」ことを資本政策の基本方針とし、配当性向は30%以上に引き上げて増配基調の維持を目指し、さらに状況に応じて一定規模の自己株式の取得を行う。

資本の効率性 ROE 目標9%以上

株主還元 配当性向 目標30%以上



第5次中期経営計画 → 第6次中期経営計画

ROE…企業の自己資本(株主資本)に対する当期純利益の割合  
EPS…1株当たりの純利益

## 第6次中期経営計画の想定キャッシュ・フロー

3年間のキャッシュインを310億円と推定する。その約6割を設備投資に、約4割を株主還元に充当。



※3か年累計

取締役

よしだ あきひと  
**吉田 昭仁** 取締役執行役員  
株式会社横河ブリッジ代表取締役社長執行役員



略 歴 1987年 4月 当社入社  
2016年 6月 株式会社横河ブリッジ取締役設計本部長  
2019年 6月 同社取締役総務本部長兼技術本部長  
2020年 6月 同社取締役常務執行役員総務本部長兼技術本部長  
2022年 4月 同社取締役社長執行役員  
当社執行役員

2022年 6月 当社取締役執行役員(現任)  
株式会社横河ブリッジ  
代表取締役社長  
執行役員(現任)

執行役員

さいとう いさお  
**齊藤 功** 執行役員  
株式会社横河NSエンジニアリング代表取締役社長執行役員

略 歴 1984年 4月 当社入社  
2011年 6月 株式会社横河住金ブリッジ(現株式会社横河NSエンジニアリング)  
2017年 6月 取締役東京営業部・大阪営業部担当  
同社常務取締役東京営業部長・大阪営業部・鉄構エンジニアリング営業部担当

2018年 6月 同社代表取締役社長  
2020年 6月 同社代表取締役社長執行役員(現任)  
2022年 4月 当社執行役員(現任)

かじ ひろひと  
**梶 宏人** 執行役員  
株式会社榑崎製作所代表取締役社長執行役員

略 歴 1982年 4月 当社入社  
2014年 6月 株式会社横河ブリッジ取締役橋梁生産本部長兼  
安全品質管理室長兼設計センター副センター長  
兼大阪支店長  
2015年10月 同社取締役大阪支店長兼橋梁生産本部長

2018年 6月 同社常務取締役大阪支店長兼生産本部長  
2020年 6月 株式会社榑崎製作所取締役常務執行役員  
2022年 4月 当社執行役員(現任)  
2022年 6月 株式会社榑崎製作所取締役社長執行役員  
株式会社榑崎製作所代表取締役社長執行役員(現任)

なかむら ゆずる  
**中村 譲** 執行役員  
調達室担当 安全・品質管理全般

略 歴 1984年 4月 横河工事株式会社入社  
2012年 6月 同社取締役東京建設本部本部長兼土木工本部長  
2015年10月 株式会社横河ブリッジ取締役橋梁工事本部本部長  
2018年 4月 同社取締役東京工本部長  
2019年 6月 同社常務取締役東京工本部長

2020年 6月 同社取締役常務執行役員東京工本部長  
2022年 4月 当社執行役員(現任)  
株式会社横河ブリッジ取締役副社長執行役員  
東京工本部長兼海外事業部長(現任)

会社概要

社 名 株式会社横河ブリッジホールディングス  
所 在 地 〒108-0023  
東京都港区芝浦四丁目4番44号  
TEL:03-3453-4111(代表)

資 本 金 9,435百万円

主 な 機 能 経営戦略、法務・監査、経理・財務  
総務・人事、IR・広報、技術研究開発

役員一覧 (2022年6月28日現在)

代表取締役社長 高田 和彦  
取締役常務執行役員 高木 清次  
取締役常務執行役員 宮本 英典  
取締役執行役員 吉田 昭仁  
取締役執行役員 柴原 一也  
取締役執行役員 小林 明

取 締 役 亀井 泰憲 (社外取締役)  
取 締 役 黒本 和憲 (社外取締役)  
取 締 役 天野 玲子 (社外取締役)

常 勤 監 査 役 廣川 亮吾  
常 勤 監 査 役 大島 輝彦

監 査 役 志々目 昌史 (社外監査役)  
監 査 役 八木 和則 (社外監査役)  
監 査 役 吉川 智三 (社外監査役)

執 行 役 員 齊藤 功  
執 行 役 員 梶 宏人  
執 行 役 員 中村 譲

株式の状況

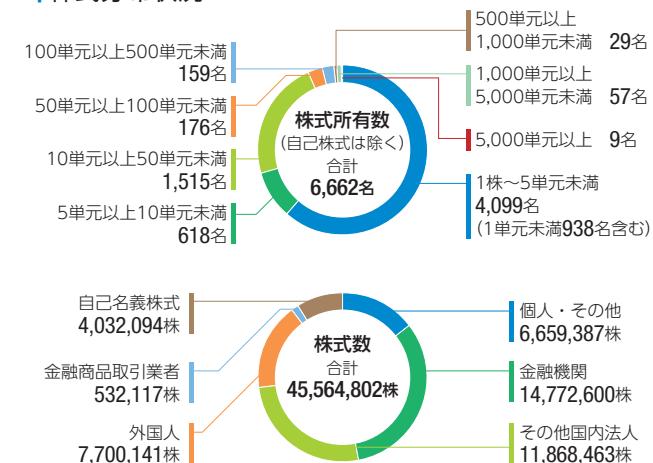
発行可能株式総数 180,000,000株  
発行済株式総数 45,564,802株  
株主数 6,663名

大株主 (上位10名)

株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	6,962	16.76
(株)日本カストディ銀行(信託口)	4,526	10.89
横河電機(株)	2,234	5.38
日本製鉄(株)	1,987	4.78
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	898	2.16
住友不動産(株)	674	1.62
横河ブリッジホールディングス従業員持株会	648	1.56
日本生命保険相互会社	543	1.30
三井住友海上火災保険(株)	514	1.23
(株)みずほ銀行	445	1.07

(注) 1. 当社は、自己株式を4,032,094株保有しておりますが、上記大株主からは除外してあります。  
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式分布状況



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	<a href="https://www.ybhd.co.jp/">https://www.ybhd.co.jp/</a>



表紙の写真

## 多摩川スカイブリッジ

所在地：東京都大田区羽田空港二丁目～  
神奈川県川崎市川崎区殿町三丁目  
型式：鋼3径間連続鋼床版桁橋＋  
鋼2径間連続桁橋

多摩川スカイブリッジは、川崎市殿町の「キングスカイフロント」と東京都大田区の羽田空港エリアをつなぎ、多摩川にかかる橋の中では最も長く、最も下流に位置する橋梁です。橋長602mの鋼3径間連続鋼床版桁橋と橋長72mの鋼2径間連続桁橋で、連続桁橋として支間長240mは国内最大級の規模を誇ります。施工地の生態系保持空間を守るため、送り出し架設、トラベラークレーン架設などさまざまな架設工法を採用し、干漏を最大限守りながら施工し、2022年3月12日に開通しました。

 **株式会社 横河ブリッジホールディングス**

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号  
TEL. 03-3453-4111 (代表) <https://www.ybhd.co.jp/>

当社のホームページもご覧ください。  
<https://www.ybhd.co.jp/>

当社のホームページでは、企業情報のほか、グループ各社の事業紹介、IR情報に加え、サステナビリティなど様々な情報をタイムリーに発信しております。是非アクセスしてみてください。



トップページ

## YBHD公式動画



当社グループの仕事を、迫力ある映像にてご紹介いたします。夜間作業や様々な橋梁技術を「YouTubeチャンネル」でご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/channel/UCQ36ZbBgG3yPPBfUyPsL8g>

